

## 施設研修会に参加して

### 鶴見川 川和遊水地

### 鶴見川流域センター、鶴見川多目的遊水地 研修記

シンジーテック（株）横須賀事業場  
業務課 進 藤 裕 二

令和元年10月16日（水）9:45 横浜市営地下鉄川和町駅改札口前に参加者12名が集合しました。今回の研修先は、午前中が鶴見川川和遊水地、午後が鶴見川流域センター、鶴見川多目的遊水地の2施設でした。台風19号の後ということもあり、普段見られない光景を目の当たりにでき、遊水地の重要性を学ぶ貴重な研修となりました。

#### 「洪水から人々の生活を守るために」

##### ～鶴見川 川和遊水地～

最初の訪問先、鶴見川川和遊水地は、横浜市営地下鉄グリーンラインに乗り、川和町駅で下車し、徒歩10分位のところにあり、職員の方が出迎えてくれました。

川和遊水地は、「鶴見川新流域整備計画」に基づき、約60mm/h r（10年に1回規模）の降雨にも対応できる総合的な治水対策を進めてきました。

その中で、横浜市営地下鉄グリーンライン川和車両基地の地下を遊水地として利用すること（駅地下は全国初）により、河川環境への影響を最小限にとどめ、また事業効果の早期実現を図ることができる川和遊水地の整備を行い、平成20年3月に完成しました。

この施設は、鶴見川沿いに高さ4.5m、長さ30mの越流堤（計画水位5.8mより低い部分）を設置することにより、鶴見川が増水した際の一時貯水施設となっています。その貯水容量は、12万m<sup>3</sup>となっており、鶴見川の水位を17cm抑えることで、氾濫水位を超えることを防止しているそうです。



川和遊水地管理棟（右側が鶴見川）



～遊水地内部 台風19号時の貯水水位～

普段であれば遊水地内に水は無いとのことでした。しかし訪問した際は、関東地方、甲信地方及び東北地方に甚大な被害をもたらした台風19号が通過した後であったため、地盤支柱約4.5mの位置に遊水地内へ貯水されたことが確認できる跡を見ることができました。今回の対応で10回目の貯水であり、その時の流入状況は、貯水容量の約8割にあたる9.8万m<sup>3</sup>とすることで、過去3番目の流入量とのことでした。対応していただいた職員の方も、見学時にここまできれいに貯水の跡がみられるのは、本当にタイミングが合わないと見ることができないので、良い体験をされていますと、仰っていました。

また、貯水された水は、鶴見川の水位を見ながら、排水樋管より、約10時間（12万m<sup>3</sup>満水時）掛けて、排水されるとのことでした。